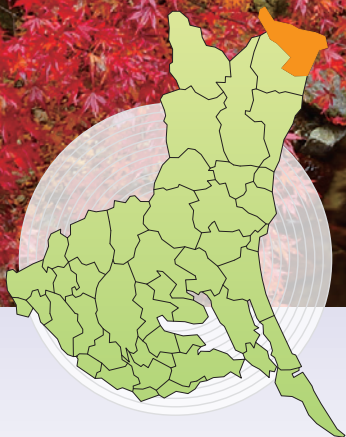


第51回 支店長のわがまち紹介



茨城県北茨城市

人の健康、まちの健康を第一に考えたまちづくり

紅葉の花園渓谷 (写真提供:北茨城市)

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長がゆかりのある市町村をご紹介させていただくコーナーです。第51回は茨城県北茨城市です。磯原支店長が北茨城市長豊田稔氏にお話を伺いました。

●北茨城市は「筑波経済月報」創刊号(2013年8月)の記念すべき第1回目に、観光や東日本大震災後の復興を中心にお話を伺いました。改めまして、北茨城市の歴史や特徴、力を入れている施策などをお聞かせください。

■芸術家が愛した心豊かな人々の住むまち

北茨城市は岡倉天心をはじめとした日本を代表する多くの芸術家に移り住み、数々の作品を生み出した地です。

なぜ彼らがこの地を選んだのかというと、地域住民が多くの芸術家を心豊かに迎え入れたからであり、ここに腰を落ち着けて日本の美術を語ろうとなったのではないかと考えています。もちろん、この地が四季折々の美しい景色を魅せることも理由の1つであると思います。



美しい五浦海岸 (写真提供:北茨城市)

■炭鉱閉鎖から工業団地集積地へと発展

北茨城市は多種多様な産業が混在しているのが特徴



北茨城市長 豊田 稔氏



磯原支店長 和田 清一

です。これは常磐炭鉱をはじめとする数々の炭鉱が閉鎖されたことに起因しています。石炭採掘の最盛期、北茨城の人口は約62,000人でした。しかし、炭鉱閉鎖に伴い約20,000人が流出し、まちは過疎化認定を受けました。そのため歴代市長や市職員は、定住人口の増大と雇用の安定を図るべく企業誘致に尽力しました。市内に工業団地を整備し、様々な企業を立地することで、人口増加に転じることができました。

■市民病院を中心とした医療、福祉、介護の充実

北茨城市では、訪問介護や在宅医療、看取りケアなどを行う家庭医療センター、悩み相談などを受け付けるコミュニティケア総合センター、北茨城市民病院の3機関を通して市民の健康を守っています。医師や看護師の数は人口に対して決して十分ではありません。しかし、患者へ向き合う姿勢は素晴らしく、特に市民病院は医療、福祉、介護の全ての面で中心となっています。

また、家庭医療センターでは、筑波大学と提携して総合診療内科医師の育成を行っています。毎日3~5人の若い医師が訪れていますが、病院も国や県からの指導を通し、

より良い環境を整備しています。1つの小さい自治体の病院で医師の育成ができるなど、とても嬉しいことです。北茨城市では山奥や僻地における診察など、様々な状況下での対応が求められるので、病院と連携し、今後も志の高い医師の招へいに力を入れていきたいと考えています。

■時代の変化に合わせた教育への取り組み

北茨城市では時代の変化に合わせた教育を進めています。「はつらつ夢プロジェクト」は、中学校区ごとに9年間を見通して系統的、発展的な指導を集中して行うことを目的に実施しています。また、「学校間連携チャレンジプラン」は、複式学級がある小規模小学校同士の連携・交流で、互いに切磋琢磨することを願い展開しています。

さらに、若者のグローバルな知識や見識を養うため、「子ども議会」*で発案された小中学校へのタブレット端末の導入や海外への派遣事業なども実施しています。

少子高齢化により、子どもの数が減少している現在、教育も多様化しています。将来の北茨城市や日本を背負って立つ子どもたちには大きな可能性が広がっていますので、可能なかぎり環境を整え、大切に育てていきたいです。

■芸術によるまちづくり

かつて石炭のまちであった関本町は、過疎化や高齢化が進み、富士ヶ丘小学校は廃校になりました。北茨城市ではその跡地を利用してアーティストのアトリエやギャラリー、そして地域とアートが日常的に交差する場所として整備し、地域おこし協力隊を活用して芸術によるまちづくりを展開しています。

北茨城市は岡倉天心、横山大観、菱田春草、野口雨情などの芸術家が創作活動を行った場所です。今後も北茨城市にとって大切な財産であるその歴史を継承していくとともに、アーティストや市民と一緒に北茨城市が文化の薫り高い芸術の場であることをPRしていきたいです。



参加型・交流型アートイベント「Campus Canvas 756」での「Flag&BBQ Party」

■国指定重要無形民俗文化財の「常陸大津の御船祭」 大津町の佐波波地祇神社で5年に1度行われる春



「常陸大津の御船祭」の様子
(写真提供：北茨城市)

の例大祭「常陸大津の御船祭」が、今年3月、国指定重要無形民俗文化財に指定されました。

「常陸大津の御船祭」は、華やかに装飾された神船が井桁状に組まれた木柵の上を300人ほどの曳き手によって引かれながら町中を練りあるくという全国に類をみない勇壮な祭りで、航海安全と大漁祈願を込めて行われています。

今後は大津町だけでなく「北茨城市の祭り」、「日本の祭り」として、大切に後世に伝えていきたいです。

■「人の健康、まちの健康」を第一に考えたまちづくり

私が一番こだわりたいのは「人の健康、まちの健康」です。人は何をおいても健康が一番大切です。そして人が健康に暮らすためには様々な支援が必要となります。市がその支援を安定的にしていくためには、まちの健康が不可欠です。北茨城市に住みたいと考えても、仕事がなければ来ることができませんし、食事が出来る場所、飲める場所、楽しめる場所など市民が行きたいと思う場所がなければ生活は成り立ちません。

「弱い人、弱い地域に手を差し伸べることが行政の根幹である」ということを常に念頭におき、市民の意見を吸い上げ、経済発展、まちの形成、安心して暮らせる環境の整備に尽力し、市民が「来てよかった、住んでよかった」と思えるまちづくりをしたいと思います。

●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

平成24年に北茨城市観光協会、(株)JT東、筑波銀行と東日本大震災からの復興に向けた包括的提携協定を締結したことで始めたノルディックウォーキングは毎年多くの参加者が訪れ、まちに賑わいをもたらします。

また、北茨城市民夏まつりやあんこうサミットなどの各種イベントに対しては支援やボランティア参加をいただき感謝しています。

筑波銀行の協力のもと連携協力することになった荘内銀行や鶴岡市との交流も順調で、「雪国体験親子ツアー」には、毎年20組40名を超える親子が参加するなど、大変好評です。

今後も続けて行きたいと考えていますので、変わらぬ支援をお願いいたします。

* 子ども議会は小学校等の児童や中学校、高等学校等の生徒を対象に行われる地方公共団体の模擬議会をい、議会・行政の意義やしくみを理解してもらうことを目的に行われる。まちづくりや教育行政など児童生徒に身近なテーマについて首長や教育委員会に質問・提案するといった形をとることが多い。